



Press Release

応用電子、パソコン・サーバーメーカー『クアンマックス』（台湾店頭公開企業）と PC の日本市場における独占的取扱いについて合意  
日本国内のパソコンメーカー各社は、クラウドコンピューティング時代に必須のシンクライアント用ディスクレス PC、タブレット PC、スマートフォン、デュアルブート PC を自社ブランドで販売可能に

2010年7月2日  
株式会社応用電子

株式会社応用電子（東京都品川区西五反田7-13-5、代表取締役社長 矢野 正博）は、クアンマックス（Quanmax Inc. 台湾台北市、CEO Kevin Tseng）と2010年6月7日、日本国内市場におけるノートブック PC の取扱いについての独占契約を締結したことを発表します。この契約および同日協議の合意事項の概要は次の通りです。

1. クアンマックスは現行ノートブック PC ラインナップについて、応用電子に対して日本市場における取扱いについての独占権を与える。
2. クアンマックスと応用電子は、今後、取り扱い機種を増やしていく。
3. クアンマックスは応用電子のために PC のサポート拠点を日本国内に設ける。

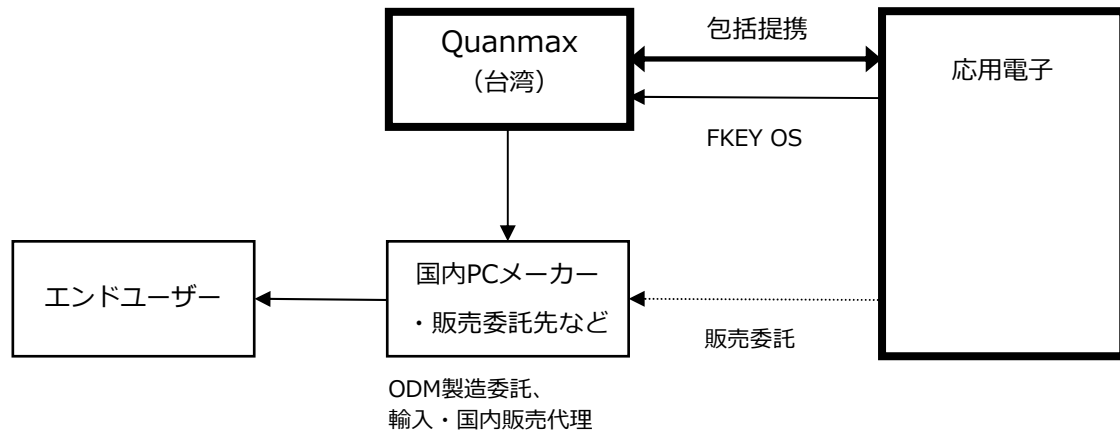
応用電子は、上記ノートブック PC の取扱いについての独占契約に付随して、クアンマックスとノートブック PC 以外の PC 製品等の日本市場における取扱いについても合意しました。

なお、応用電子が自社開発したシンクライアント専用オペレーティングシステム「FKEY OS」は、PC 製品の製造ラインにおいて書き込まれることが決定しています。シンクライアント専用オペレーティングシステムを製造ラインで書き込み搭載した PC 製品を日本市場向けに製造・販売することは、この分野での初の試みです。

応用電子は、クアンマックスとのパートナーシップを得たことにより、オペレーティングシステム「FKEY OS」を搭載したシンクライアント用ディスクレス PC など、クラウドコンピューティングに対応した各種 PC を日本市場に安定供給することが可能となります。今後拡大が予想されているシンクライアント用 PC 市場において、小規模から大規模までの様々な規模のニーズにフレキシブルに対応できます。

応用電子は、自社ブランド「FKEY」による日本市場への各種 PC の供給を進める一方、今後はクアンマックスとの提携を機軸に相手先ブランド製品への展開や、PC メーカー各社への「FKEY OS」の供給を視野に、日本国内におけるクラウドコンピューティング対応 PC の市場を開きます。（〈図1〉をご参照。）

<図 1>



#### ◇ クアンマックスについて

クアンマックス (Quanmax Inc. \*1) は、ノートブック PC や組込み型 PC 等を企画し、自社ブランド「Quanmax」や「MAX DATA」で、主に欧州、台湾、中国など日本以外の市場に展開しております。

\*1 クアンマックス URL <http://www.quanmax.com/> 台湾店頭市場 (3549.TWO)

#### <応用電子との提携目的>

提携主要目的は、クラウドコンピューティング時代に必須の次世代先端通信技術を持っているソフトウェアメーカーである応用電子との提携による製品ラインナップの充実と日本市場でのビジネス拡大です。

クアンマックスは、世界規模でのクラウドコンピューティングの流れにより、セキュリティと利便性を両立したシンクライアント技術の製品の組み入れを検討してきました。クラウドコンピューティングやシンクライアントにおいては、次世代の高速通信ネットワークである LTE や 4G への技術移行への対応が必須であり、そういった分野で日本の通信キャリアの技術が世界的にトップクラスであることを認めております。また、クアンマックスは、クラウドコンピューティング、シンクライアント専用の各種端末を世界に発信するきっかけを模索してまいりました。その中で、今般の応用電子との提携により、日本の次世代高速通信対応技術をいち早く取り込め、かつ、日本市場から強いニーズが起きるであろうクラウドコンピューティング、シンクライアントの専用端末をグループの新たな製品戦略に取り込むことを期待しております。

#### ◇ 株式会社応用電子について

株式会社応用電子は、20 年を超える先端技術分野での開発実績を持っており、特に 2007 年以降は、先端ソフトウェアの開発エンジニア集団として、通信キャリア大手との共同開発等を経て次世代ネットワークに向けた各種の技術提供、ソフトウェア開発を通じ、クラウドコンピューティング時代に必須の製品を提供しております。

#### <クアンマックスとの提携目的>

大手通信キャリアとの共同開発を経て、自社開発によるシンクライアント用のオペレーティングシステム「FKEY OS」を製造、これを USB スティックやマイクロ SD カードに組み込み・搭載して、既存 PC をシンクライアント化して利用するビジネスモデルを展開しております。

一方、ここ最近のクラウドコンピューティング活用の気運も上がり、PC そのものに一切のユーザーデータを残さない方式、すなわち HDD にインストールされた既存のオペレーティングシステムを使わず、「FKEY OS」を搭載したシンクライアント専用 PC のニーズが高まりました。それにともない、工場の生産ラインで「FKEY OS」が書き込まれたシンクライアント専用 PC を実現するには、クアンタグループとの提携が必須と判断しました。

そして、クアンマックスとの提携目的は、日本の大手を含む有力なパソコンメーカーが、「FKEY OS」が搭載されたシンクライアント専用 PC を自社のブランドで取り扱うことができる道筋を整えることにあります。これにより、クラウドコンピューティング時代に必須であるデータセンターのホスティングサービスのビジネスに弾みがつくこととなります。当社がデータセンター事業者各社をパートナーとして進めております、データセンター事業者との連携による「シンクライアントパッケージ」や「クラウドコンピューティング」に用いる専用端末の量産体制、拡販体制が整うと同時に、国内における保守体制も整うこととなります。（<図2>をご参照。）

シンクライアント専用端末を含むクラウドコンピューティング対応 PC のラインナップにはスマートフォンやタブレット PC なども含まれ、随時当社「FKEY OS」の搭載された製品が日本市場に展開されていくこととなります。

#### <図2>クアンマックス製品の例



## ★シンクライアント専用 PC に限定した市場規模について

### ○国内 PC 出荷台数

	2006~2009 年平均	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
国内の PC 出荷台数(万台) (A)	1,338	1,375	1,375	1,375	1,375	1,375
仮想化導入率予測 (B)	11.5%	14.0%	17.5%	22.5%	28.0%	35.1%
仮想化用途の PC 予想台数(万台) A × B	154	193	241	309	385	483

注

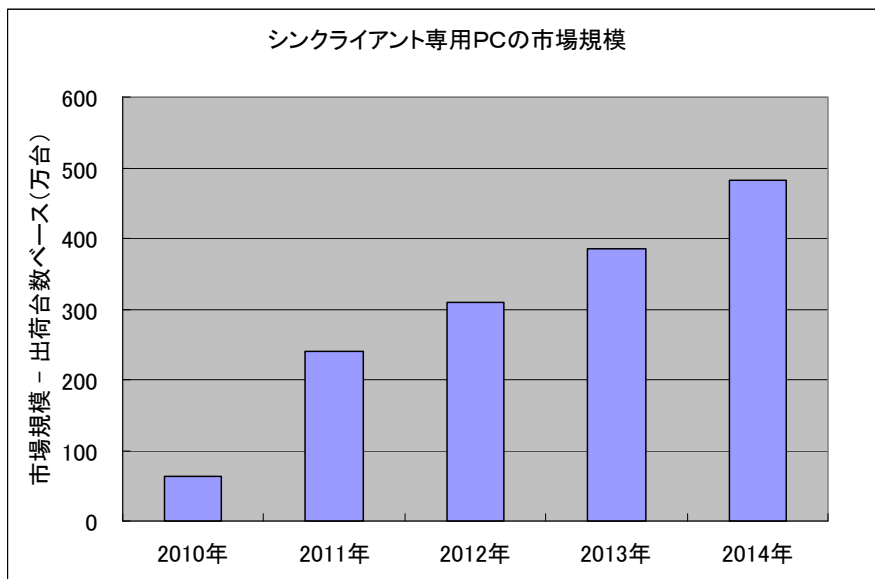
1. PC 出荷台数は、2006~2009 年平均（実績）と、2010 年（予測）は MM 総研発表の資料による。2011 年以降は 2010 年から増減なしと仮定。（2006 年以降の増減は 10%未満と僅かであるため。）
2. 仮想化導入率予測は、IDC Japan 発表の資料（2010 年 6 月 7 日「国内クライアント仮想化市場規模予測」）による。なお、「2006~2009 年平均」欄は 2009 年の値である。

### ○当社予想市場規模

仮想化用途のクライアント PC をシンクライアント「FKEY OS」のターゲットと捉える。

当社では、2010 年以降、次の表の通り予測。（2010 年は 3Q より）

	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
シンクライアント専用 PC の市場規模 年間出荷台数ベース(万台)	64	241	309	385	483



※ この市場規模予測は、シンクライアント専用 PC に限って算出したものです。専用サーバー、スマートフォン、タブレット PC などの「FKEY OS」搭載予定製品期待市場は除きます。

### 当リリースに関するお問い合わせ先

株式会社応用電子

東京都品川区西五反田 7-13-5 DK 五反田 2F

広報担当：菅野 (かんの)

TEL : 03-5888-4015

E-mail : info@aec1984.com

URL : <http://www.aec1984.com/>